

横浜市教育委員会  
臨時会会議録

- 1 日 時 令和5年4月21日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出席者 鯉淵教育長 中上委員 森委員 四王天委員 大塚委員 木村委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

# 教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和5年4月21日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項  
新たな図書館像（図書館ビジョン（仮称））策定に向けた市民ワークショップの実施  
について  
新型コロナウイルス感染症への対応について
- 3 審議案件  
教委第3号議案 横浜市学校規模適正化等検討委員会臨時委員の任命について  
教委第4号議案 教職員の人事について  
教委第5号議案 審査請求に関する教育長臨時代理について
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

鯉渕教育長 ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。  
議事に先立ちまして、事務局から連絡事項がございます。

片山総務課長 本日、市庁舎にて避難訓練の実施が予定されております。会議中に避難訓練について放送が入る場合がございますが、会議は継続して実施いたします。よろしくお願いたします。

鯉渕教育長 それでは、議事日程に従い、会議録の承認を行います。3月17日及び3月24日の会議録の署名者は中上委員と木村委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員 <了 承>

鯉渕教育長 それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、4月7日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

木村教育次長 【一般報告】

## 1 市会関係

教育次長の木村です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会定例会から本日までの間についての報告はございません。

## 2 市教委関係

### (1) 主な会議等

### (2) 報告事項

- 新たな図書館像（図書館ビジョン（仮称））策定に向けた市民ワークショップの実施について
- 新型コロナウイルス感染症への対応について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、こちらも前回の教育委員会定例会から本日までの間についての報告はございません。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告いたします。まず1点目ですが、「新たな図書館像（図書館ビジョン（仮称））策定に向けた市民ワークショップの実施について」、次に2点目ですが、「新型コロナウイルス感染症への対応について」報告いたします。

私からの報告は以上です。

鯉淵教育長

報告が終了いたしました。何か御意見・御質問等ございますか。  
特になければ、次に「新たな図書館像（図書館ビジョン（仮称））策定に向けた市民ワークショップの実施について」所管課から御報告いたします。

福島図書館ビジョン等担当部長

図書館ビジョン等担当部長の福島です。どうぞよろしくお願ひいたします。令和5年度中に、図書館ビジョンを新たな図書館像として策定しておりまして、それに先駆けて市民ワークショップを実施させていただきたいと思ひます。それについて、このたび、記者発表並びに広報の手続きをさせていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。詳細につきましては、課長の高柳から説明いたします。

高柳教育政策推進課担当課長

教育政策推進課担当課長の高柳でございます。よろしくお願ひいたします。それでは、資料に従って御説明させていただきます。

横浜市の図書館の未来を語るワークショップに参加する市民等の方を募集します。横浜市立図書館では、子育て世代をはじめとした全ての市民が居心地よく過ごせる場としての図書館の在り方を調査・検討し、図書館ビジョン（仮称）を策定いたします。その一環として、市民等の皆様の意見交換会をワークショップ形式で開催いたします。ぜひ皆様の御意見をお聞かせください。

「1 実施概要」「（1）開催日程・場所」についてです。第1回は、令和5年6月11日日曜日の14時から16時45分まで、ウィリング横浜で行います。第2回は、令和5年6月18日日曜日の13時30分から16時15分まで、都筑区役所で行います。第3回は、令和5年6月24日土曜日の13時30分から16時15分まで、神奈川公会堂で行います。第4回は、令和5年7月1日土曜日の13時30分から16時15分まで、二俣川地域ケアプラザで行います。「（2）対象」については、市内在住・在勤・在学の方で、中学生以上の方を募集いたします。「（3）募集人数」については、各回40名で事前申込みとし、申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。なお、参加は無料で、第2回から第4回は託児がございました。また、各回同じ内容で実施いたします。「（4）内容」については、説明を行ったあと、グループワークを行います。グループワークでは、「①行ってみたいくなる図書館」「②子育てと図書館」「③まちの魅力づくりと図書館」の3テーマについて、参加者の皆様に御検討いただき、取りまとめた内容を発表していただく予定でございます。「（5）留意事項」について、グループ分けは年齢層のバランス等を考慮し、事務局で設定させていただきます。また、ワークショップ当日の様子は、ホームページへの掲載を予定しております。

裏面を御覧ください。「2 応募方法等」についてです。「（1）応募期間」については、本日4月21日から5月25日までとなります。「（2）応募方法」については、電子申請フォーム、若しくはファクシミリでお申込みいただけます。なお、いくつか注意点がございました。重複したお申込みは無効となります。条件を満たしていなければ当選無効になる場合があります。応募はお一人様1通。いずれか1回のみのお参加をお願いしたいと思ひます。当日、報道機関による撮影が行われる場合がございますので、あらかじめ御了承ください。「（3）抽選結果」については、6月1日木曜日にお知らせ予定でございます。最後に、「3取材について」の御案内をさせていただいております。御説明は以上になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

大塚委員	質問がございます。良い取組でありましても、発信方法によってはなかなか情報が届かない場合もございますが、発信方法についてこんな工夫をしていますということがございましたらお願いいたします。
福島図書館ビジョン等担当部長	今回の広報につきましては、広報よこはま5月号に掲載させていただくとともに、市のSNSであるLINEやTwitterでも発信させていただきます。また、子育て世代向けにはメールマガジンや一斉メールをはじめ、子育て支援団体の皆様にも情報をお届けできるよう工夫させていただいております。さらに、印刷したチラシを全ての小中学校ほか、高等学校、大学、地区センター、コミュニティハウス、地域ケアプラザ等、幅広く広報させていただく予定であります。
大塚委員	区役所等との連携もお考えでいらっしゃいますか。
福島図書館ビジョン等担当部長	もちろん、こども家庭支援課などの関係部署に今回の配布物を活用して連携させていただこうと考えております。
大塚委員	子育て支援拠点と区役所は、たくさんの情報をお持ちだと思います。ぜひそのような機関と連携しながら、様々なところに情報を届け、多くの方々に応募していただけるよう取り組んでいただきたいと思ひます。 もう1点は、配布資料に「図書館ビジョン」について記載がありますが、参加される方々はこのワークショップでただ話し合っただけで終わってしまうのではなく、話し合ったことがこの先にどうつながっていくのか。そのような点で参加される方々が意識できるような目標は何かございますか。
福島図書館ビジョン等担当部長	当日開催するワークショップの概要説明のところ、今後策定される図書館ビジョンに御意見が反映されていく旨をお伝えしようと考えております。
大塚委員	参加された方々が、自分たちの話し合ったことが図書館ビジョンにこのように反映されると後々分かるような事後発信も、ぜひお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。
木村委員	今の大塚委員の質問等とも重複するのですが、お話し合いの中で、いろいろな言葉が出てきますよね。今、エビデンスベースで次にどうつなげるかということがものすごく大事であります。例えば、タスク分析等、何か分析してまとめる、提出する、といったことは考えておられるのでしょうか。
福島図書館ビジョン等担当部長	このワークショップの意見だけではなく、事前に市民アンケートなども実施しておりますので、最近流行している言葉、あるいは多く出てきたキーワードを拾い上げてタスク分析することについては、ぜひ試みていきたいと思ひます。また、この図書館ビジョンの策定にあたりましては、今後、市民意見募集も実施させていただく予定ですので、そのような手法もぜひ活用させていただきたいと考えております。
木村委員	今、エビデンスベース等いろいろと言われているけれども、皆さんの意見や多くの意見とは、どの程度の意見のことを言うのか全く分からないですよね。感

覚的なものでしかないため、こういったものをしっかり把握することは大事かと思ひます。もう1点、タスク分析するときも、それぞれの会場のものだけでなく、いろいろな会場で、全体との比較、あるいは年齢別の比較など、いろいろなことができると思ひます。配布資料の留意事項に「グループ分けは年齢層のバランス等を考慮して」と書かれていますが、年齢をばらばらにするのですか。それとも、年代を固めていろいろと話し合われるのでしょうか。

福島図書館ビジョン等担当部長

基本的には一つの年齢に偏るのではなく、幅広い年齢層になることを前提に考えております。

木村委員

分かりました。それも良いと思ひますが、ある事柄について年代別ではどう意見が違ふのだろうかという見方もありますので、臨機応変に実施していただき、より良いワークショップになれば良いなと思ひています。以上です。

森委員

御報告ありがとうございます。ビジョンの策定にあたり、このような形でワークショップを実施することは非常に良いことだと思ひています。しかも、1回だけではなく、様々な場所で4回に分けて実施し、いろいろな方が参加できるような工夫がなされていること。また、託児がついていることは非常にありがたいです。

いくつか意見があります。一つ目は、参加対象について中学生以上と書いてありますので、中学生や高校生といった子供たちの意見をしっかりと吸い上げられるよう、学校にチラシを配るだけでなく、実際に参加してもらえようお声掛けをお願いしたいと思ひます。何なら1割ぐらひは中学生、高校生が参加してくださいと良いなと思ひます。

二つ目は、最も声が届きにくい方々の声が、しっかりとそこのあるような工夫をお願いします。例えば障害のある方などは、時間や条件によって、これまでなかなかアクセスできなかったこともあると思ひます。そこで、参加できない方からも、このような意見が既に集まっているよという声だけでも、ワークショップの場にちゃんと貼り出されているなり付箋で見えるようにするなどの工夫をしていただけると、なかったことにならず、ちゃんとそこを踏まえてお集りの皆さんが議論いただけると思ひます。

三つ目は、グループワークの三つのテーマ、「①行ってみたいくなる図書館」「②子育てと図書館」「③まちの魅力づくりと図書館」についてです。①のテーマは、どうやったら図書館へのアクセスを向上できるのか、③のテーマは、どうやったらその図書館だけでなく街全体の魅力づくりにつながるかについて、ぜひ皆さんから意見を募集したいということで、非常にわかりやすいテーマかと思ひますが、②のテーマについては、何を聞こうとしているのかと言ひますか、子育て中の方々が行ってみたいくなる図書館ですと①のテーマとかぶりますので、子育て中の方々が〇〇な図書館など、何をねらいとして聞こうとされているのかが、もしありましたらお聞かせください。その問いかけ方については、一つ工夫が必要かなと思ひましたので、質問とコメントです。

四つ目は、「(4)内容」に「ア 説明」とありますが、この説明が非常に大事だと思ひます。どのようなことを考えているのか既にあれば教えていただきたいですし、なければ現在検討中でも構ひません。私個人的に、この説明で大事だと思ひているのは「前提」についてです。「自由に意見を出してください」というときの皆さんの前提がばらばらですと、自由な意見もまとまらなくなったり、

意見が浮遊してしまいますので、前提を揃えていくことが大事だと思います。今まさに未来を語るワークショップですので、配布資料に青字で書いてあります「子育て世代をはじめとした全ての市民が居心地よく過ごせる場」が、今回新しく掲げているテーマだと思うのですが、横浜市の図書館として変わらない軸もあると思います。それが何なのか、新しく打ち出したいものは何なのか。その両方の前提を知った上でないと、意見がちぐはぐしてしまうと思います。その軸が何なのかとか、例えば、未来といったときは2050年ぐらいなのか、2100年なのか。また、未来の未来感ですとか、数はいくらでも増やせるのかそうでないのか。そこから辺で考えている前提の整理をぜひお願いしたいと思います。

最後に、参加者が安心して話すための場のルールについて、工夫いただきたいと思っています。今回のテーマである「居心地よく過ごせる場」の居心地の良さは、人によって全く違うという前提で皆さん集まると思います。「子供が騒いでも全く問題ない」という方もいれば、「静かに本を読める場こそ私にとっての居心地の良さ」という方もいますし、「蔵書がいっぱいあってそれにたくさん触れることが居心地の良さ」である人もいれば、「勉強できるスペースがいっぱいあるのが私にとっての居心地の良さ」など、それぞれ自由に意見を出せる場でもあると思うのですが、違う価値観が並んだときに、価値観が違う前提でも安心して意見を出せるためには、違うのではないかと否定しないような空気やルールづくりが大事だと思います。その前提の工夫をしていただくと、とても良い意見がたくさん集まると思いますので、楽しみにしています。少し質問を挟んでいますが、お願いできますでしょうか。

福島図書館  
ビジョン等担当  
部長

まず、中学生以上の10代の学生参加については、私たちもしっかりと声かけ等を行い、多くの参加を促していきたいと思っています。今後、築40年を超える図書館がどんどん増えていきますが、将来の利用者にもなりますので、より良い施設を作っていくためにも、ぜひ多くの参加を呼びかけていきたいと思っています。

次に、障害をお持ちの方への配慮については、配布資料の裏面の申込み欄にありますとおり、手話通訳や筆記通訳の御希望をあらかじめお聞きし、なるべくワークショップにスムーズに御参加できるように工夫していきたいと考えております。

それから、テーマの「子育てと図書館」については、これまで子育て世代向けのアンケートを実施し、その中では、「子供が遊べるスペースが欲しい」との回答が確か一番多く66.2%ございました。例えば、図書館で騒いではいけないといった規制や制約がある中では、なかなか足を運びづらい子育て世代の方々もいらっしゃることも想像し、ぜひこれをテーマにと考えさせていただきました。

それから、説明の前提条件が大事というお話については、前提条件が自由過ぎても意見がまとまらないところも確かにありますので、今回のワークショップでは、図書館に詳しい方々をファシリテーターとして手配させていただき、一緒に連携しながらより良い意見を吸い出せるように配慮していきたいと考えております。

それと、図書館として変わらない軸ですとか、規模感、数といったことについては、今後このような御意見も様々ないただいたうえで、図書館ビジョンの中でしっかりと方向性を出していきたいと考えております。

最後に、場のルール、居心地の良さ等については、委員のおっしゃるとおりで、当然そういったものを大事にしながら、活発なワークショップになるようにしっかりと努力していきたいと思っています。よろしくお願いたします。

鯉淵教育長	ほかにございますか。
四王天委員	<p>生の声を聞くことはとても重要なことで、臨場感があるといろいろな意見が出されるかと思えます。このワークショップに参加される方は、図書館に非常に関心の高い方や行きたい方がほとんどだろうと思う一方で、図書館に行かない人の意見はどこで求められるのかなと思っております。例えば、なぜ図書館を利用しないのだろうか、こういうことがあるから利用したくないとか、そのような意見を求めるための方法については何かお考えでしょうか。</p>
福島図書館ビジョン等担当部長	<p>先ほど申し上げた子育て世代向けのアンケートの中に、図書館を利用したことがない方に向けた選択肢もあります。その回答の中で、例えば、場所が遠いですとか、あるいは行きにくいなどがありますが、詳細についてはちょっと調べてみます。</p>
四王天委員	<p>意地悪な言い方かもしれませんが、ポジティブな意見があるのか気になります。</p>
鯉淵教育長	<p>今のところは、アンケートを取っているというところを御理解いただければと思います。</p>
四王天委員	<p>分かりました。</p>
中上委員	<p>図書館への思い入れは、人それぞれだと思います。私たちはどうしても教育現場のことを考えてしまうのですが、生涯学習では、余暇でどのように自己実現させるかとか、伝統的な図書館に対する要望・ニーズも多いと思います。まず、教育委員会ですから運営する側から考えると、18区の図書館は非常に限られたスペースで、先ほどのようないろいろなニーズを受けなければいけないと思います。それで、「静かにしろ」というのと「もっと子供たちも連れて行きたい」というのは相矛盾したものになります。ある程度スペース的に解決していかなければいけないわけですが、老朽化した図書館をリニューアルするのは物理的な問題もあります。</p> <p>いずれにしても、利用する人の立場がいろいろと違うので、意見をまとめるのが非常に難しいと思うのですが、キーワードは「未来を語る」ということだろうと思います。現状の改善型の要望はいろいろとあると思うのですが、それだけではなくて未来のことも考えてほしいと思います。教育では常に不易流行ということがあって、伝統的にもっと改善してほしいという要求と、将来のニーズがもう変わってきているというものがあります。例えば、よく言う探究型学習でもそうですけれども、探究というのは、探し求めるというのと、究めるというのがあるわけですね。特に求めるほうは、人生の意義を探求するというぐらいですから、何のために図書館があるのかということを見ると、今の共生社会の中で、皆さんに愛される図書館というのがキーワードだろうと思います。そこで今、探究型学習もそうですが、そこに行って単なる自己実現で、自分が研究の究のほうで教養を深めていくということだけではなく、周囲の人といろいろな意見交換をしたり、協力して取り組んでいくとか、共生して取り組んでいけるような場が今の時代に求められていると思います。そこら辺は今回のワークショップだけではなく、今までのストックも含め、ほかの公共集団も使った、特に司書集団といたしますか、図書館司書、学校司書の方、また、地区センターとか、実際に利用され</p>

ている方、当然現場からの要望もあるかと思えます。

利用者が時間的、物理的、予算的な制約なしにこうやってほしいというような意見をまとめるのは大変だと思います。本当はワークショップを今回だけでなく違ったパターンでも実施してほしいと思うのですが、先ほどの部長の説明の中で、時間がある程度限られた中で結論を出していくということも理解できますので、そこら辺のハンドリングの難しさはあると思います。

いずれにしても、図書館に対する思いは皆さんいろいろあるでしょうが、なかなか共通項で話すのは難しいと思います。どこかで割り切らなければいけないですし、現実に18館の図書館の在り方も踏まえなければいけない。そのさじ加減も踏まえながら、図書館ビジョンを策定いただきますようお願いしたいと思います。意見です。

鯉淵教育長

ほかにございますか。

福島図書館ビジョン等担当部長

先ほどの四王天委員の未利用者等について、図書館を使ったことのない方々の分析ですが、図書館まで行くのに30分以内という方が44%いる一方で、その手段が、電車、バス、自家用車等でないと行けないという回答が一番多かったです。それと同時に、6割以上の方が子供と図書館を利用したいと回答しています。つまり裏返して言いますと、子供と利用しにくいと言えるのではないかと思います。以上です。

四王天委員

分かりました。ありがとうございます。物理的要因であるなら仕方ないと思いますが、ネガティブな意見もクリアしていかないと、新しい利用者層が増えていけないと思います。ポジティブな人の意見ばかり聞いていても広がらないということ踏まえて、少し意地悪な質問をさせていただきました。ありがとうございます。

鯉淵教育長

ほかにかがででしょうか。よろしいでしょうか。それでは、特にほかにも御質問がなければ、次の「新型コロナウイルス感染症への対応について」、所管から御報告いたします。

青石人権健康教育部担当部長

人権健康教育部担当部長の青石です。よろしくお願いたします。本日は新型コロナウイルス感染症の対応について、「児童生徒・教職員の新型コロナウイルス感染状況」や、先日行われました「市立学校の入学式」の様子、「5月8日以降の学校における感染症対策」の3点御報告させていただきたいと思えます。報告につきましては、担当の課長からお話させていただきます。

長田健康教育・食育課長

おはようございます。健康教育・食育課長の長田でございます。よろしくお願いたします。新型コロナウイルス感染症の対応につきまして、まず一つ目「児童生徒・教職員の新型コロナウイルスの感染状況」でございます。市中の感染者数増加に伴いまして、4月の学校再開以降、市立学校関係者の感染者報告数も微増傾向でございます。なお、市立学校では引き続き感染予防のための取組を行っております。実際の学校の関係者の感染者数につきましては、表のとおりになってございます。

2ページ目を御覧ください。「2 市立学校の入学式について」でございます。市立学校の令和5年度入学式は、4月6日から順次、児童生徒数や学校施設の実情に合わせて実施しております。なお、市立学校では、入学式の儀式的行事

におきまして、国歌・市歌・校歌等の斉唱や合唱時等を含め、児童生徒・教職員・来賓・保護者ともマスクの着用は求めないとしております。

「3 5月8日以降の学校における感染症対策について」でございます。令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症が感染法上の2類から5類へ移行します。文部科学省から通知が発出される予定になっておりまして、5月8日以降の学校における感染症対策につきましては、それを踏まえて通知をさせていただく予定です。また、5月以降に行われる運動会、体育祭、そして修学旅行など学校行事につきましても、今後発出される予定の通知に基づき、順次行っていきます。

石川学校教育  
企画部長

学校教育企画部長の石川でございます。私からは、市立学校の入学式について若干補足させていただきます。先ほどの資料にありました入学式の様子の写真は、磯子区森東小学校の様子でございます。この学校では多くの子供たちがマスクを着用せずに入学式に参加したと聞いております。校長からは、笑顔も含めて子供たちの表情を見ることができて安心したという声を聞いております。小学校の入学式は、この学校のように大半というかほとんどの新入生がマスクを外して参加している状況だと聞いております。中学校、高等学校の入学式では、保護者を含めほとんどの生徒がマスクを着用している状況だったと聞いております。私からは以上でございます。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

大塚委員

御報告ありがとうございます。入学式等でマスクの着脱を求められずということで、1年生は、幼稚園や保育園によっても違うと思いますが、比較的マスクなしの生活をしてきた子供たちが多いのかなと思います。マスクのない子供たちの笑顔で入学式が開催されたと察することができます。今度、新型コロナウイルス感染症が5類になるに伴い、教育委員会としての学校支援で何か変化があれば、現場等もその部分が気になるところかと思っておりますので、こういう部分で気をつけていますとか、こういう支援をとということを教えていただきたいと思っております。

石川学校教育  
企画部長

5類になったからということではないかもしれませんが、学校については引き続き感染症予防と学校生活の両立ということで、通知等で必要な情報は必要なタイミングで出していくなど、学校に対して丁寧に情報提供していくということです。また、昨年度から職員室業務アシスタントを配置しており、規模の大きい学校につきましては2人配置しています。これも引き続き支援として続けていきたいと思っております。以上です。

大塚委員

ありがとうございます。着脱に関しては、感染症が今後広がっていくのか収束していくのかというところで子供たちも様々な不安を抱えていると思っておりますので、学校支援を丁寧に行っていくことは大切なことだと思っております。

もう一点、子供たちがマスクを外すか外さないかについて、教職員にもあるのではないかと思います。着脱に関する不安に関しては、全校配置されているスクールカウンセラーなどと連携を密に取っていただいて、子供たちの心のケアに丁寧に取り組んでいただきたいと思っております。これは意見です。

鯉淵教育長

ほかにいかがでしょうか。

森委員

御報告ありがとうございます。こういった形でいろいろな通知を発出したりする中で、「選択肢」と「自己決定」と「環境」という三つの組合せが大事だと思っています。今、マスクの話が出ていますが、着けるか外すかは選択肢としてももちろんありますし、それを実際どのように自分が決定していきたいのかということと、それを安心して決定できる環境があるかが大事です。今まさに新しいクラスや学年が始まって、クラスづくりや環境づくりに皆さん取り組んでいるところなのではないかと思います。先日、子どもの社会的スキル横浜プログラムを導入している学校などを見学させていただいたのですが、自己承認と他者承認をすごく丁寧に取り組んでいるプログラムだなと思いました。それが小学校だけでなく中学校にも広がりいろいろな学校で行われており、学活などいろいろな授業の中で安心して決定できる環境づくりがなされていくことがいかに大事かと痛感しています。年度が始まったばかりですが、様々な場面でそういう環境づくりを引き続きお願いしたいと思いました。

二つ目は行事についてですが、コロナ禍の3年間で様々な行事を各学校で見直したと思います。そもそも何のためだったんだっけと考えて行わなくなったり、若しくはスリムにしたり、本質に立ち返って実施した学校も多数あったと思います。お聞きしたいのは、今、見直したものを元に戻そうとしているのか。それとも、本質をしっかりと考えて議論したからこそ、元に戻すというよりは見直した行事を見直したままとし、子供たちに必要な機会をこのように工夫していこうとしているのか。こういった事例が今起きているのか、もしお聞きになっていたら教えてください。

石川学校教育  
企画部長

委員がおっしゃったように、この何年間かで学校で当たり前のように続けていた行事や活動を、ねらいも含めて振り返って見直したことは本当によく行われたと思っております。コロナ禍の後、現在の状況でどのようにするかについて、今、学校は様々検討しているところだと思います。今年度につきましても、単に元に戻すのではなくて、もう一回、今までの経験も踏まえ、きちんと指導計画なり活動計画を見直していくことについては、我々も発信しているところでございます。具体的には、今まで長時間だった運動会等を、例えばコロナ禍では午前中開催や半日開催にしたり、昼食の取り方が今までお弁当だったのをそうではなくしたりとか、いろいろ取り組まれていることは、そのままいこうという学校の声は聞いております。それは学校の規模や子供たちの様子によって、またいろいろと違うとは思いますが、修学旅行等の宿泊先が遠方だったのを近いところにしてみようとか、活動の中身も今までとは違うプログラムに変えてみたいという話も聞いております。5月8日以降のことについて、学校は様々検討しているところだと思いますので、これから分かってくるかなと思っております。

森委員

ありがとうございます。まさに今それを皆さんが検討しているところなのだなとお聞きして思いました。子供たちのためにということで皆さんが熱心に積み上げてきたものが今までの取組だったと思いますし、また、これからも皆さんの熱心さゆえに、これもやってみよう、あれもやってみようというのが増えてくると思います。コロナ禍でのいろいろな制約があったからこそ見直せた。そもそも何のためだっけと立ち返るような時間を、年度当初にもう一回見直そうみたいな時間を、どの学校でも取るような場面を設けていただくことが、これからも引き続き必要だと思っています。非認知能力のいろいろなデータもたまってくると思いますので、子供たちのより良い力の発揮の仕方がこのプログラムとどのように関係しているのかということも、たまったデータを寝かせるのではなく、それも見な

がら検討することもできていくと良いなと思っています。もし今後そういった議論ができて、教育委員会にレポートが届いてきましたら、ぜひまた教えてください。

鯉渕教育長

ほかにございますか。

木村委員

これまでも新型コロナウイルス感染症に関して行われてきた様々な対応や予防については、ものすごく評価しております。意見と質問が一つずつあります。意見としては、コロナ禍でかわいそうと言っていますが、私は、コロナ禍の子供たちは最高かつ最強の子供たちだと思います。私たち大人は、何かあるとどうしようと右往左往したり妥協しますけれども、子供たちはうまく適応していますよね。先ほど発言のあったような行事を取ってもそうですが、大人は「前例が」とか「慣例が」で困っていたところに子供たちは適応できていますから、そういったものを大きく評価するような試みとかが大事ななと思っています。

そのうえで少しお聞きしたいのですが、「現行の通知」の1(2)の「差別・偏見等がないよう」は、本当に重要だと思いますが、その後の「児童生徒の発達段階等に応じて、丁寧に指導」とは、発達段階でどのように指導が違っているのか気になったものですから、教えていただければと思います。

長田健康教育・食育課長

御質問ありがとうございます。この児童生徒の発達段階の関係でございしますが、やはり年齢によって子供自身の体験の状況が変わっていきますので、その年齢に分かりやすい表現でということ考えております。

木村委員

分かりました。表現とか説明の仕方ということですね。コロナ禍を過ごした子供たちの力をうまく活用する、生かすというのがこれからの横浜の教育として重要だと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。以上です。

中上委員

森委員と木村委員のお話と少し重なる点があると思いますが、コロナ禍を振り返ってみますと、現場は教育委員会事務局も含めて大変で、本当によく乗り切ったなと思います。いずれにしても、逆にコロナ禍のおかげでという言い方はおかしいですけども、GIGAスクール構想として、タブレットがこんなに一気に進んだわけですよ。これもピンチをチャンスに変える、教育の内容を変える大きな契機だったと思いますので、これを更に良いチャンスと捉えて取り組んでほしいです。さきほど森委員がおっしゃったように、運動会、体育会、修学旅行といった行事を単純に戻すのではなくて、せっかく見直したわけですから、更に意義のあるように取り組んでいただきたいです。特に修学旅行は、学ぶものではなく楽しむものになってしまっているわけです。実際、日本の伝統、歴史や文化が今、外国人観光客からも非常に評価されています。ですから、自由に好きなところを訪れるというのも一つですが、日本のすばらしい文化を学ぶ機会でもありますので、単なる楽しみではなく、学ぶ、修める修学旅行にしていきたいと思っています。

それと、校歌は、小学校、中学校、高等学校とそれぞれ思い出がありますが、学校ごとによって変わってくるわけです。ところが、横浜市歌は、幼稚園は極端にしても、小学校、中学校、高等学校、大学、成人式まで歌うわけですよ。ですから、この3年、横浜市歌を歌えなかったのは非常に残念だなと思います。これも一つの例ですが、横浜市歌を皆さんで元気よく歌えるような政策も進めたいと思います。以上です。意見です。

鯉渕教育長

よろしいでしょうか。

四王天委員

今度は素直にお話ししたいと思いますが、今ほかの委員もおっしゃっていたように、新型コロナウイルス感染症によってもたらされたものという前向きな捉え方を、もうちょっとしなければいけないなと思っていて、一つは、インフルエンザの感染が大分減少したというような捉えがあります。実際、現在共存している中でのインフルエンザの感染による学校への影響はありますか。

長田健康教育・食育課長

ありがとうございます。季節性インフルエンザ、例えば学級閉鎖数ということでお伝えさせていただきますと、今年度の速報値になりますが、学級閉鎖の数的には約350クラスという状況です。なお、コロナ禍前の令和元年度については約550、また、平成30年度については900近いクラスが閉鎖になっておりますので、コロナ禍では大分減っているという状況がございます。

四王天委員

感染症に対する予防、手洗い、マスクといったものが大事であることが認識されたことで、インフルエンザの拡大にならなかったのではないかと思います。抵抗力がなくなるという心配はありますが、それはまた数年後の検証ということだと思います。

もう一つ、マスクをしたり黙食をするなどいろいろな制約が多かったと思いますが、それから解放されたということで、いわゆる日常みたいなものが戻ってきているわけです。その日常の中に幸せがあるということに気付くことがとても大切だと思いました。意見です。ありがとうございました。

鯉渕教育長

ほかによろしいでしょうか。ほかには御意見等がなければ、次に議事日程に従い、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第3号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会臨時委員の任命について」、教委第4号議案「教職員の人事について」は人事案件のため、教委第5号議案「審査請求に関する教育長臨時代理について」は訴訟等に関する案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、教委第3号議案から教委第5号議案は非公開といたします。審議に入る前に、事務局から報告をお願いします。

片山総務課長

次回の教育委員会定例会は、5月11日木曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、5月26日金曜日の午前10時から開催する予定です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は、5月11日木曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、5月26日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

教委第3号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会臨時委員の任命について」

(原案のとおり承認)

教委第4号議案「教職員の人事について」

(原案のとおり承認)

教委第5号議案「審査請求に関する教育長臨時代理について」

(原案のとおり承認)

鯉淵教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午後0時15分]